

講義科目名称： 成人看護学Ⅲ

授業コード： 2230201100

英文科目名称： Adult Health Nursing Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
◎石田和子、樺澤三奈子、小林綾子、石岡幸恵、坂田智佳子			
添付ファイル			

授業種類	<p>【開講】 前期</p> <p>【授業時間】 15時間</p> <p>【担当教員】</p> <p>【氏名】</p> <p>◎石田 和子</p> <p>樺澤 三奈子</p> <p>小林 綾子</p> <p>石岡 幸恵</p> <p>坂田 智佳子</p> <p>実務経験のある教員が担当します。</p> <p>【研究室】</p> <p>317</p> <p>318</p> <p>205</p> <p>310</p> <p>共同研究室3</p> <p>【本学の科目区分】</p> <p>専門科目</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】</p> <p>看護師課程</p> <p>【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 【DP7】</p> <p>○ ◎ ○</p>
------	--

到達目標	<p>1. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ人のセルフケア能力を高める看護方法を説明できる。</p> <p>2. 緩和ケアを必要とする人々の全人的苦痛、および対象への看護方法を説明できる。</p>
授業概要	<p>慢性的な経過をたどる疾患をもつ成人期にある人々ならびに緩和ケアを必要とする人々を総合的にとらえ、健康レベルに応じた看護を実施するための基礎的能力を養う。慢性期にある人々の代表的な健康障害への看護や緩和ケアにおける症状マネジメントを取りあげ、よりよいQOLの実現に向けた看護アプローチを学ぶ。</p>
授業計画	<p>1-2 授業内容</p> <p>授業形態：講義</p> <p>学習課題：がんの集学的治療を行う患者と家族の看護</p> <p>学習内容：ガイダンス</p> <p>がん薬物療法を受けるがん患者と家族の看護</p> <p>備考：石田</p> <p>2 授業内容</p> <p>授業形態：講義</p> <p>学習課題：がんの集学的治療を行う患者と家族の看護</p> <p>学習内容：がん放射線療法を受ける患者と家族の看護</p> <p>備考：樺澤</p> <p>3 授業内容</p> <p>授業形態：講義</p> <p>学習課題：慢性疾患により生活調整を継続する患者と家族の看護</p> <p>学習内容：糖尿病患者と家族の看護</p> <p>備考：小林</p> <p>4 授業内容</p> <p>授業形態：講義</p> <p>学習課題：慢性疾患により生活調整を継続する患者と家族の看護</p> <p>学習内容：腎不全患者と家族の看護（人工透析）</p> <p>備考：小林</p> <p>5 授業内容</p> <p>授業形態：講義</p> <p>学習課題：リハビリテーションによる生活の再構築を必要とする患者と家族の看護</p> <p>学習内容：脳血管疾患患者と家族の看護</p> <p>備考：小林</p> <p>6 授業内容</p> <p>授業形態：講義</p> <p>学習課題：リハビリテーションによる生活の再構築を必要とする患者と家族の看護</p> <p>学習内容：慢性呼吸不全患者と家族の看護（HOT導入）</p> <p>備考：坂田</p> <p>7 授業内容</p> <p>授業形態：講義</p> <p>学習課題：リハビリテーションによる生活の再構築を必要とする患者と家族の看護</p>

	<p>8</p> <p>学習内容：慢性心不全患者と家族の看護 備考：石岡</p> <p>授業内容 授業形態：講義 学習課題：緩和ケアを必要とする患者と家族の看護 学習内容：がん性疼痛をもつ患者と家族の看護 備考：石岡</p>
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：どこカレの当該科目のコースに掲載されている、各授業回で学習するテキスト該当ページの内容を確認する。その際、形態機能学、臨床栄養学、臨床薬理学、臨床病態学、成人看護学Ⅰ・Ⅱ等で既修した、慢性疾患やがんの病態・治療・看護についての基礎知識を見直す。 ・事後学習：理解が不十分であった内容について復習を行う。 <p>※事前あるいは事後学習として、担当教員より、授業中およびどこカレ上で課題を指示することがある。</p>
評価方法、評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 100%：期末試験として、到達目標1と2の達成度を評価する。
必携図書	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木志津枝他，編：慢性期看護論，ヌーヴェルヒロカワ．「前年度購入済み教科書」
参考図書・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 成人看護学[2][3][4][5][6][8][11][13][14]、緩和ケア（いずれも医学書院） ・鈴木久美他，編：看護学テキストNiCE 成人看護学 慢性期看護，南江堂． ・梅田 恵他，編：看護学テキストNiCE 緩和ケア，南江堂．他、適宜紹介する。
受講、課題、資料配布等のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・講義日程や事前準備、試験等に関することはどこカレ内の学生掲示板で周知します。 ・授業計画に沿って必携図書に目を通し、自己学習したうえで授業に臨んでください。 ・私語など、他の学生の受講に支障となる行為は厳禁とします。 ・出席日数が規定に満たない場合は評価対象としません。20分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ・欠席、追試、再試の各手続は学生便覧に従ってください。
教員からのメッセージ	<p>患者を全人的にとらえる視点、病態・治療をふまえた看護を理解する上で、成人看護学Ⅰ・Ⅱ、形態機能学・栄養学・臨床生化学・臨床薬理学・臨床病態学などで学んだ知識が役立ちます。これらと関連付けながら授業に臨んでください。この科目で学習する知識を演習や実習での看護実践に活用できるよう、必携図書および参考図書を積極的に読み、さらに理解を深めましょう。</p>
オフィスアワー	